

ひと まち 輝く

キラリ ✨ kirari

箕面市立みのお市民活動センター

(指定管理者:(特活)市民活動フォーラムみのお)

〒562-0013 箕面市坊島4-5-20

みのおキューズモールWEST1-2F

TEL. 072-720-3386 FAX. 072-720-3387

<http://www.shimink.jp/>

Vol. 2

平成30年(2018年)3月発行

トピック

出会いで広がった共感の連鎖は、
夢を実現する大きな力に！

次は自分たちの番！
世代を越えて、つながる支援

特定非営利活動法人
ダウン症ファミリー総合支援 めばえ21
代表 永田和子さん



出会いで広がった共感の連鎖は、夢を実現する大きな力に！

～日本で初めてのダウン症専門デイサービス開設に向かって～

活動のきっかけ

昨年8月、箕面本通り商店街の中にNPOによるものとしては日本で初となるダウン症児専門のデイサービス「めばえ21」が開設されました。

運営しているのは「特定非営利活動法人ダウン症ファミリー総合支援 めばえ21(以下「めばえ21」)の皆さん。代表の永田さんは、自身が4回の流産と1回の死産を経てようやく妊娠した際、胎児がダウン症児であることがわかりました。当時は周囲にあまり情報もなく、その時の心境は言葉に尽くせないものであったと思います。どうやって育てたらよいか悩まれましたが、ダウン症の子を持つ当事者の方との出会いも心の支えとなり出産を決意されました。

ダウン症の子どもは筋力の発達が遅いなどの特徴があり、食事や着替えなど生活のさまざまなことができるようになるのには平均的な子どもより時間がかかります。そうした身辺自立のサポートを受けることができるよう、生まれたお子さんは公立の保育所に通っていましたが、その子が4歳児のクラスに上がるとき、支援の必要な子どもでも親が働いていなければ保育所に通い続けることができないようになりました。永田さんは子どもが引き続き同じ保育所に通い続けることができるよう働く場所を探しました。幸い看護師の経験を活かして医療関係施設で働くことができましたが、この時、ダウン症児の支援のためには親が働ける場所も必要なのだと感じるようになりました。

ターニングポイント

医療機関への就職は、支援の必要な子どもにとっての専門的なサポートの重要性を感じるきっかけにもなりました。一方、当事者であるからこそ踏み込んで伝えられることもあります。永田さんたちが考える理想的な支援は、さまざまな専門性と、当事者としての経験や思いを併せ持つものであり、「当事者である親が専門家と連携して専門性を身につけ、スタッフとしてそれを提供するデイサービスを立ち上げたい」ということを思い立ったそうです。

その頃、ふと市報に掲載されていた『夢の実支援金』の記事が目にとまり、「こんな制度があるならチャレンジしてみよう！」と『みのお市民活動センター』に相談をしました。それが夢の実現に向けて大きく動き出した瞬間でした。

永田さんたちは初年度、立ち上げ支援のコースで「ダウン症児の『やってみたい！』応援教室」事業への交付を受け、ダウン症の子どもを対象としたさまざまな療育・スポーツ・文化の活動に取り組みました。そして次年度以降の3年間は事業の拡充・発展を対象としたコースに申請し、体験教室を継続・発展させながら、講演会等ダウン症についての啓発活動、デイの設立を視野に入れた研修会等にも取り組んでいきました。そして支援金交付の年限となる2017年度に、ついに念願のデイ設立が実現しました。

活動の先にある夢の実現に向かって

理想とする支援のためには、スタッフの養成を始め、取り組むべき課題はまだあります。それでも永田さんは、人との出会いがそれらを乗り越える大きな力になっているといます。



めばえ21 代表 永田和子さん

困難に直面したときに周りを見渡すと、何かしら心に響くことに導かれて道が開けると実感したそうです。声を上げることで、自分たちができないことや弱い部分を助けてくれる人とつながって今があるのだと。出産前に出会ったダウン症児の親の方

とは以降も交流が続き、その後に出会ったダウン症児の親の仲間たちとともに「めばえ21」の母体となりました。また以前に交流会を通じて関わった学生の方が、活動に大きく共感して「めばえ21」を就職先を選んでくれることもありました。このような、人との出会いこそが活動を進める大きな原動力。永田さんはたくさんの人と出会い、苦しいことがあってもきっと誰かが背中を押してくれると信じています。「ダウン症児のファミリーのためにこの活動を進めることが自分の使命。この生き方にぶれはありません。ダウン症の子どもを持つことは、親として誰でも有り得ること。ダウン症で生まれても何の心配もない社会をつくりたいと思っています。」永田さんの屈託のない明るい笑顔のなかに一途に進んでいく秘めた力を感じました。



ダウン症の子どもを持つ親と有志が立ち上げた、ダウン症者とその家族を支援する団体です。ダウン症の子どもたちがより豊かな未来を歩めるように、デイサービス事業・啓発事業・きょうだい支援・支援グッズ開発等の様々な活動を行っています。デイサービスを開設してから、医療や教育等の専門機関との連携や、活動に共感して支援する人が増えるなど、活動が広がっています。

めばえ21 Information

特定非営利活動法人
ダウン症ファミリー総合支援 めばえ21
児童発達支援・放課後等デイサービス めばえ21

事務所 箕面市箕面6-1-15 第六吉光ビル101号室
TEL 072-737-8735 FAX 072-737-8766
Mail mebae21day@eagle.ocn.ne.jp
HP <http://mebae21osaka.wixsite.com/mebae21>



渡塾の学生講師たち

次は自分たちの番！ 世代を引きつぎ、つながる支援

箕面を中心に1人親家庭を支援している特定非営利活動法人あっとすくーるが運営する渡塾。この塾に中学2年時から通い始め、今は講師としてボランティアをしている大学1年生Oさんにお話をお聞きしました。

■最初は渡塾の生徒だった

中学校2年の時に母親と後輩から、「こんな塾があるから行ってみたら」と勧められたのがきっかけです。値段も安くて、自分と同じように1人親家庭の子どもも通っている塾と聞いて、興味を持ちました。

行ってみると、年が近くて親しみやすい先生がいて、授業もわかりやすく面白い。先生の中にも1人親家庭で育った人がいたり。授業がない日でも自習のために通って、週5日は行っていました。おかげで成績が伸びて、志望校に行けました。

高校生になってもそのまま通いました。勉強だけでなく、学校での人間関係とかの悩みも、先生のほうが年が近い分、親よりもわかってくれて。それで話してスッキリした後なら、親から何か言われても素直に聞けたり。志望大学に合格したことを報告したときも、すごく喜んでくれました。

■今度は自分が講師になって恩返し

その頃から、代表の渡さんから、大学生になったら講師をしてみないかと誘われるようになりました。最初は冗談っぽかったし、自分も、阪大生に混じって教えられるわけないと思っていました。でも、高校すら行けるかどうかわからなかった自分に、高校も大学も志望校へ行かせてくれた渡塾に、恩返ししたいと思うようにもなって、引き受けることにしたんです。



渡塾での学習支援の様子

やっぱり、元生徒だからこそ生徒の気持ちがわかる部分もあると思います。「ああ、自分もそういう時あって、こう変えてもらった」みたいな。

それで、「教えてもらった人が次の子に教える」というのはいいサイクルだなと思うようになりました。教えている生徒の成績が上がったり、相談してきてくれてスッキリした顔で帰って行ったり、とにかく生徒が楽しそうだとうれいですね。

■これからのこと

他にも渡塾の元生徒で講師になった学生がいて、彼らと一緒にクラウドファンディング(寄付集め)にも取り組みました。寄付が集まれば、経済的に厳しくて授業料が払えなくても、奨学金で勉強できる子が増えます。

自分としては、生徒ともっといろんなことを相談してもらえる関係になりたいし、相談してくれたら応えられるようにしたいなと思います。そして、今教えている子どもたちが、また渡塾の講師になって次の世代の子どもたちにつないでいってくれたらいいなと思います。

あっとすくーる Information

特定非営利活動法人 あっとすくーる (渡塾運営団体)

TEL&FAX 072-702-0020 HP <https://atto-school.jimdo.com/>

promo

広報 promo 検索

記事はウェブサイトですぐ掲載。

NPO広報サポーターpromo(プロモ)は、本誌発行団体の広報サポーターが地域のNPOの活動現場取材レポートしています。
<http://promo.minoh-npo.com/about.html>



「山」「まち」「人々の暮らし」を支える

箕面市の山間部、新興住宅街の真横に山の風景が広がる箕面森町は約20年前に開発された地域です。このまちづくりに貢献するのは「とどろみの森クラブ」。里山を愛する人々が、山と地域をつなげようと、イベントや小中学校と連携して、人々と山がふれあう交流の場をつくっています。「一部の人間だけが山と携わるのではなく、まちに暮らす人々が気軽に踏み入れられる。これが私たちの目指す『まちの人々が楽しめる山』だ」と事務局長の林さんは言います。

人が山と共生していくのは山を使うということで、手つかずの自然を目指すのでない。木の間伐がなければ土砂崩れの可能性も高まります。人と山の共生は、人と山が適切に交わることで成り立っています。とどろみの森クラブの活動は日々「山」「まち」「人々の暮らし」を支えています。都会の喧騒を離れて里山でゆっくり暮らすという生活も、こうした人の手によって守られているのかもしれない。

とどろみの森クラブ Information

特定非営利活動法人 とどろみの森クラブ

TEL 080-5357-7605 Mail info@t-moric.info
HP <http://www.t-moric.info/>

